



及川修一 (魁)

### 道路行政について

**質問** 市道大陽小友浦線の塩谷から油崎間は、震災で路肩や法面が崩れ、大変危険である。新道建設やかさ上げなどの抜本的改良が必要と思うがどうか。

**答弁** 国庫補助を導入して、路面舗装、ガードレールの設置、法面工や大規模な擁壁工なども計画している。

**質問** その工事予定はいつか。



市道大陽小友浦線

**答弁** 工事発注は、平成25年3月頃、完成は同年12月頃を予定している。

**質問** 本路線は、路肩が崩落しており、冬場は路面凍結、西風による海水のしぶきなどに悩まされている。本工事までの間、簡易舗装などの整備をすべきと思うがどうか。

**答弁** アスファルト材での簡易舗装を行うこととし、業者に発注した。本工事までの間も、安全な通行の確保に努めている。

### 復興計画の考え方について

**質問** 小友浦干がた再生の計画では、地域の思い描く面積が確保されておらず、もつと広く取るべきと思うがどうか。

**答弁** 干がたの面積は、防潮堤の復旧位置により決まる。防潮堤を陸地面に移動するだけその総延長が増え、工事予算が膨れるので難しいと考える。

**質問** 各種スポーツ施設の計画地は、市内の復興のバランスを考え、他町に移し、高台移転などに利用してはどうか。

**答弁** スポーツ施設は、有事の際の防災拠点としての位置付けもしており、体育館予定地の

高田東地区は、市民などの広域避難拠点と位置付けている。

**質問** 小友中学校跡地は、未崎の球場も近く、野球場の適地と思うが、その考えはないか。

**答弁** 地域からは別の求めもあるが、市内の土地利用の整合性も図りながら、地域の合意があれば、考える余地はある。



小友浦干がた再生予定地

### 住宅再建について

**質問** 市長が選挙公約としたリフォームに対する補助を行うようだが、どのような思いでこの事業を行うのか。

**答弁** 市民は皆被災者であるとの思いから創設した。市民の住宅整備に役立てていただきたい。商品券を使うことで市内業者にも還元させたい。



大坪涼子 (日本共産党)

### 在宅介護への支援と医療費等の減免継続

**質問** 震災前と震災後の高齢者の暮らしも大きく変わり、在宅介護での家族の苦労も大変になっている。市ではどのように考えているのか。

**答弁** 仮設住宅の高齢者は軽度の介護度が増加傾向にあり生活不活発病の心配もある。予防的に介護サービス利用希望が多くなっている。



仮設住宅団地にて

在宅介護の家族には心身ともに苦勞が多い。様々な介護サービスの活用等の個別相談や、「介護家族の会」を再開し、家族同士の話し合いを進める。

**質問** 一時的に預かる施設の整備が必要ではないか。

**答弁** ショートステイ10室、小規模多機能型9室や介護サービス事業所開設も予定している。

**質問** 病院、介護施設との「地域連携バス」の状況はどうか。

**答弁** 今年2月の高田病院入院棟開設以来再開し、リハビリの専門職の追加や県立大船渡病院との連携も進めている。

**質問** 10月以降の医療費や介護保険利用料等の減免はどうか。

**答弁** 国保医療費や介護サービス利用料の減免を来年3月31日まで延長する。

**質問** 医療や福祉等やさしい行政であってこそ復興につながると思う。市長の考えはどうか。

### 新しい団地に公民館や街路灯等の整備を

**質問** 集団移転の団地に、公民館等、住宅以外の整備はどう

の運行については、法令を順守した基本方針と運行規程を設けていくと聞いている。市としても地域福祉団体の活動に対し、社協と連携しながら支援していきたい。

**質問** 児童や生徒は、震災を契機に浸水した地域を避け、遠回りして学校に通っている。安全対策についてはどうか。

**答弁** 幅員の狭い通学路は車道外側線を引直し、車道と歩道の明確化を図るほか、通学路を示すのぼり旗や看板を設置し、車両への注意喚起を促している。夕暮れ時の対応としては、児童生徒全員に携帯用懐中電灯を配布し安全の確保に努めている。



安全対策が求められる通学路

**質問** 震災前に運行されていた福祉バスの再運行を願う声が多い。市として何らかの支援はできないか。

**答弁** バスを運行している市社会福祉協議会は、被災地を支援する財団からマイクロバスの寄贈を受けた。福祉バスとして

### 福祉バスの再運行に支援を

**質問** 震災前と震災後の高齢者の暮らしも大きく変わり、在宅介護での家族の苦労も大変になっている。市ではどのように考えているのか。

**答弁** 仮設住宅の高齢者は軽度の介護度が増加傾向にあり生活不活発病の心配もある。予防的に介護サービス利用希望が多くなっている。



今年度の水防訓練

### 地域防災対策をどう進めるのか

**質問** 東日本大震災の発災を踏まえ、地域防災計画の見直し作業を行っていると思うが、進捗はどうか。

**答弁** 県は本年3月に見直したところであり、県計画との整合性を図りながら作業を進めている。内容は大震災の検証結果など多岐にわたり、来年3月の成案を目指している。

**質問** 近年、ゲリラ豪雨による被害が全国各地で発生しているが、気仙川の監視体制はどうか。

**気仙地区議員協議会**  
**米崎コミセンで総会を開催**

第47回目となる総会は、8月20日米崎コミセンで開催され、気仙地区内3市町議会の議員50人が参加し、岩手県に対する要望11件の議案等が決まりました。

本市に関わる主なものは以下のとおりです。

- ・県立高田高校及び高田病院の早期再建
- ・防災メモリアル公園整備
- ・一関市までの自動車専用道の新設整備、米崎町アツプルロードから高台を通り国道340号へ延伸する新ルート整備、新たな県道陸前高田停車場線整備
- ・JR大船渡線早期復旧、「気仙沼」陸前矢作駅の速やかな運転再開」等

これらの要望は11月中に岩手県等に提出されます。

総会後、東北放射線科学センター理事の高倉吉久先生が「身のまわりの放射線について」と題して講演。実際に測定器を使って乾燥コンブなどの放射線のベータ線量の測定も行なわれました。



子宮頸がんリーフレット

### 子宮頸がんワクチン等の接種状況は

**質問** 本市のワクチン接種の取組み状況はどうか。

**答弁** 子宮頸がんは6か月間で3回接種が必要。昨年は中学一年から高校一年生まで236人、接種率は85%となっている。

**質問** ワクチン接種をぜひ定期接種化すべきではないか。

**答弁** 接種費用は全額公費負担しているが、定期接種化に向けて国や県と協議していく。